

07 未来へつなぐ科学のひろば
サイエンスアゴラ

事業の概要

私 たちの日常生活は、サイエンスから多くの恩恵を受けている。よりよい社会を目指すには、社会全体がサイエンスへの関心を高め、その付き合い方をじっくりと考えることが必要で、サイエンスコミュニケーションの重要性が指摘されている。

そんなサイエンスコミュニケーションを実践する場として、2006年に始まったサイエンスアゴラは、研究者や教育関係者などの専門家から一般の人たちまで、あらゆる立場の人たちが参加して、いろいろな角度からサイエンスを論じあうことのできる複合型



昨年の「サイエンスアゴラ2009」で行われたイベントの様子。

のイベントである。

アゴラとは「広場」という意味だ。参加者たちが自由に意見を交換する「科学の広場」を作り、立場の違う人

たちが科学技術や科学技術政策についてコミュニケーションすることで、科学技術がより身近な文化になっていくことを目標としている。

会場では、研究者らによるシンポジウムだけでなく、企業や、大学、科学館職員、中高生などによって、科学技術がより身近にそして楽しく感じられる、さまざまな展示やワークショップなどのイベントが行われる。

この「広場」に参加して、「科学技術をどうしていくべきか、どう使っていきたいのか」をみんなといっしょに考えてみてはいかがだろうか。

サイエンスアゴラ2010

「サイエンスアゴラ2010」は、「未来へつなぐ科学のひろば」と題して行われる。5回目を迎える今年は、日本の科学技術をどうしていくかということに、より焦点が当てられた内容となっている。

11月19日(金)に行われる開幕セッションを皮切りに、翌日から20日(土)、21日(日)の2日間でワークショップやサイエンスカフェ、ミニシンポジウム、トークセッションなど、科学を身近に感じることのできる150あまりの企画を開催。

たとえば、「**ニッポンの科学技術が目指すもの**」(11月19日(金)15:00~17:00 東京国際交流館3階・国際交流会議場)と題した開幕セッションでは、柳沢正史 テキサス大学、筑波大学教授と、小池康博 慶應義塾大学教授らをパネリストに招いて、日本が科学技術をバネにして、その存在感を世界に示し続けるためにはどうしたらよいか、グリーンイノベーション

ンやライフイノベーションを中心に論じられる。

「**ザ・メイキング・オブ・サイエンスイベント@科学館**」(11月20日(土)10:00~12:00 15:00~17:00 日本科学未来館7階・会議室3)では、子供たちに人気のワークショップ「ちりめんモンスター*(写真)」や工作教室の開催を通じて、科学館職員たちが、ワークショップのノウハウを共有し、科学館が地域と連携するにはどうしたらよいかを話し合う。ワークショップには、一般の子どもたちが参加できる。

このほかにも、大人から子どもまで幅広く楽しめるイベントが目白押し。1日中たっぴりとサイエンスを楽しむことができる。

*ちりめんじゃこに混じっているエビ・カニの幼生などの異物を見つけ、分類するワークショップ。





サイエンスアゴラ 2010

サイエンスのおもしろいこと
気になること、これからのことを
語り合い、考えるための3日間

2010年11月19日(金)、20日(土)、21日(日)
10:00~17:00(19日は夕方のみ)

場所:
国際研究交流大学村(東京・お台場)

主催:
独立行政法人科学技術振興機構(JST)

共催:
日本学術会議、独立行政法人産業技術総合研究所、国際研究交流大学村

*参加費:無料(一部のイベントで材料費等の実費をいただく場合があります)詳しくは、
<http://www.scienceagora.org/>

TEXT: 大宮耕一